

親鸞聖人 御絵伝

第三軸

第六図



第五図

第四図

第三図

第二図

第一図

第六図 「弁円濟度」(べんねんさいど)

板敷山(いたじきやま)にて親鸞聖人を殺害しようとした山伏弁円(やまぶし・べんねん)が、稻田の草庵に住んでいる親鸞聖人を襲おうとしましたが、親鸞聖人の温顔に接して弓矢を捨てて帰依する情景が描かれています。

右半分は板敷山の峠で弁円一味が、親鸞聖人を待ち伏せしているところです。左半分は稻田の草庵での情景です。

第五図 「稻田興法」(いなだこうぼう)

親鸞聖人が越後(えちご)の国より常陸(ひたち)の国を越えられ、稻田の草庵にてご教化されているところが描かれています。

右半分は越後の居多が浜をお通りになっているところ、左半分は稻田の草庵でご教化されているところです。

第四図 「師資遷謫」(ししせんたく)

親鸞聖人も法然上人と同じく16日、配所は越後の国府と定められ出発します。

法然上人を見送るのは辛く、時を早めて朝早く岡崎の草庵を出発されているところが描かれています。

右半分は親鸞聖人が輿に乗せられるところで、左半分は親鸞聖人が乗られた輿が門を出たところが描かれています。

第三図 「師資遷謫」(ししせんたく)

法然上人は土佐の国に流罪と決まり、承元元年3月16日、法性寺の小御堂から出られるところが描かれています。

第二図 「師資遷謫」(ししせんたく)

仁寿殿において公卿衆を召集し、法然上人などの罪科を詮議している情景が描かれています。

第一図 「師資遷謫」(ししせんたく)

承元元年2月の念仏禁制の情景が描かれています。